

海外からのメッセージ

http://kyodokodo.jp/shiryoku_kaignai.html (ビデオ)

Martin Fletcher (英国 [イングランド])



イングランドとウェールズ医療安全庁 (National Patient Safety Agency) の最高責任者を務めるマーティン・フレッチャーです。

私たちが最も伝えたいことは、何かの間違いが起きた時、個人を非難することはやめ、システムやプロセスをよく見つけ、それらを改善し強化することで医療をより安全なものにしなければならない、ということです。医療の安全性を向上させることは、いま世界中の医療システムが等しく直面している課題だからです。ですから、こうして日本の友人たちにメッセージを送る機会をいただけてとても嬉しく思います。患者安全 (patient safety) は世界中のあらゆる医療機関にとってすべてに優先するもっとも重要な活動なのだとこのことを、あなたたちとともに確認したいと思います。

Gunther Jonitz (ドイツ)



外科医のギュンター・ヨーニッツです。ベルリン医師会の会長ならびにドイツ医師会の質保証委員会の代表を務めています。

日本のすべての医師と看護師の方々に患者安全 (patient safety) への行動を起こしてくださいと呼びかけたいと思います。これは大なる挑戦です。医療はめざましい発展を遂げましたが、同時に非常に複雑になってきています。患者さんもずいぶん変わりました。非常に高齢な方も、たいへん幼い赤ちゃんも、一度にたくさんの方々の病気を患った患者さんも、治療するようになりました。そのかわり、私たちの労働条件は低下する一方ですから、これらの問題に対処することがさらに難しくなっています。そんな状況のもとで、患者のリスクがますます増大していますが、これは日本やドイツに限ったことではなく、世界中が直面している問題なのです。

しかし私たちには問題ばかりではなく解決策もあります。正しい対策を行うことで、患者さんを傷害や危険からまもることができます。ぜひ患者安全のために行動を起こしてください。医師とさまざまな職種の医療者が協働して進めるこの国際的な取り組みに加わってください。それは医療者であるあなたにとっても、また、あなたの患者さんにとっても、すばらしい結果をもたらすことでしょう。

Vibeke Rischel (デンマーク)



デンマークの患者安全キャンペーンには国中のすべての病院が参加しています。2001年にできた法律によって医療スタッフはみんな有害事象を報告するようになりました。患者安全はいまたいへん関心の高いテーマとなっていて、誰もが安全を実現したいと願っています。

現在のキャンペーンは2007年に始まり、すべての県で病院のスタッフはみんなこのキャンペーンに従事してきました。おかげで医療は前よりも安全になりました。これまでに1500人の命が救われ、病院の文化も変わりました。リソースや成果を共有するようになり、職種や専門の壁を超え一緒になって患者さんをみるようになりました。日本の皆さんに、急変対応チームがとても成果を上げたことをお伝えしたいと思います。2年前にキャンペーンを始めた時は、急変対応チームを持つ病院はひとつもありませんでしたが、今では全体の1/3の病院で活動しています。キャンペーンには医師や看護師の団体をはじめいろいろな組織が参加し、政府も支援しています。

日本の方々もぜひ患者安全のために頑張ってください。患者安全のことがわかってくると、きっとやる気が出て、もっとよくしたいと思うようになるでしょう。あなた達のロゴマークがハートを象徴しているのが素敵です。私たちはなぜこの仕事についているか——それは患者さんのためになりたいから、ですものね。

Dag Strom (スウェーデン)



スウェーデンの患者安全全国運動の事業部長を務めています、ダッグ・ストロームです。全国の医療機関やさまざまな団体を取りまとめて、患者安全の向上を目指しています。医療関連感染症やエラー対策など6つの課題に取り組んでいます。患者安全はいま世界全体で取り組んでいるテーマなので、お互いに学びあえることをうれしく思います。日本の成功を楽しみにしています。

Pat O'Connor (英国 [スコットランド])



スコットランド政府で患者安全を担当しているパット・オコーナーです。スコットランドでは現在37の病院が、43項目に及ぶ対策と、リーダーシップ、外科治療、投薬治療、ICU治療、救命治療の5つのワークチームに基づきながら、協力して患者安全に取り組んでいます。患者安全の取り組みを始めてから、有害事象は63%も減少しており、4か月間、有害事象ゼロを記録した病院も3つ出てきています。また、2年以上も中心静脈カテーテル感染症が発生していない病院もあるのです。一人でも多くの命を救うために、患者安全に投資しましょう。日本の方々もぜひ頑張ってください。

John Mac Anon (米国)



IHI（医療質改善研究所）のジョン・マキャノンです。100 Kキャンペーンと5 Mキャンペーンの運営責任者です。このような取り組みを進めていくと、あるところまで来た時にふと気力が途切れたり困難に直面する場合があります。その時こそ、みんなが一緒になって互いに助けあい、学びあい、シンプルで実際的なステップを確実に前に進めることが大切です。医療がいま重要な岐路にあるとき、日本の皆さんが患者安全をめざす共同活動に加わられたことを感謝しています。私たちは皆さんの活動から多くのことを学ぶでしょう。日本のキャンペーンの成功を心からお祈りしています。

Pedro Delgado (英国 [北アイルランド])



日本の皆さんこんにちは。北アイルランドで患者安全運動を進めていますペドロです。皆さんの患者安全に対する取り組みは素晴らしいと思います。きっと私達が学ぶべきことがたくさんあると思います。こちらでは、北アイルランドだけでなく、イングランド、スコットランド、ウェールズでも患者安全の運動は広がっています。政府が国民と連携し、組織同士も協力し合って患者安全の考え方が浸透してきています。”yes, we can!”をモットーに頑張りましょう。

Camila Philbert (ブラジル)



ブラジルで医師をしていますカミーラです。ブラジルで呼びかけている患者安全の活動に、現在77の病院が参加しています。全国に7000ある病院の数から比べればまだ少ないですが、今は将来のために種を蒔く時です。患者安全の活動はやるべきことがいっぱいあって大変ですが、私たちは必ずこれを成し遂げると信じています。ブラジルでは、何か困難に直面した時に「私はブラジル人だから絶対にあきらめない」と言います。ですから日本の皆さんに、「Yes, we can. 一緒にやり遂げましょう！」というメッセージをお送りします。「がんばろう 日本！」日本の共同行動の成功をお祈りしています。

(以上 2008 年)